札幌の街を舞台に展開する楽しい学びの場
街の未来を思い描く授業が人と人をつなぐ

北海道の元気！NPO訪問

46 NPO法人 札幌オオドオリ大学

文・加藤知美

まちづくりにとりくむ「大学」を訪ねた。この学校に校舎はない。街がまるごとキャンパスだという。札幌のお店や公園や場外馬券売り場などあらゆる場所が教室だ。現在、「学生」は、四歳から八四歳の約二二〇〇人。札幌とその周辺地域を舞台として、ユニークな授業を展開しているのは、「NPO法人札幌オオドオリ大学」だ。愛称は「ドリ大」。校舎がないから学長室もないが、街中どこでも教室になるだけに大きな広がりが感じられた。

◇ 一人の思いから具体化されるユニークな授業

授業は、毎月、第二土曜日を原則として三～四コマ程度が開講される。先生は、まちづくりに限らない様々な分野の専門家だったり、企業や役所で仕事をしている人だったり、小学生や地域のお年寄りが「教壇」に立つこともある。生徒登録をしている人が、参加したい授業をその都度申し込んで受講する。一回ごとに完結するので、学びの自由度は高い。例えば、「紙箱の工場見学授業」、「コンサドーレを応援する授業」、「ラジオドラマをつくる授業」など、タイトルを聞いただけで面白そうと思えるカリキュラムだ。農業、食、ものづくり、音楽、お酒、恐竜、ギャルなど、日常のありとあらゆるモノ・コトがテーマとなる。たった一人の「あったらいいな、こんな授業」という思いから企画が始まり、自分が一人目の生徒になることを前提に授業を組み立てる。周囲のアイディアを取り入れ、工夫をこらして授業の内容が決められる。自薦で授業のプランを応募する人もいる。札幌の街に何らかの関係があり、札幌が好き、札幌の未来を考えたいという思いを共通項とした人たちが、生徒になったり先生になったりして、多様なコミュニケーションを生み出している。

運営を担うのは、学長と一五名の授業コーディネーターたちだ。毎月定例の「職員会議」を開いて、授業のアイディアをかたちにする。授業コーディネーターは、デザイナーやコピーライター、映像作家など「街」に感度の高い様々な職業をもつ主に三〇代前半のメンバーだ。札幌の良さを広めたい、日常生活での発見をいろいろな人と共有したいといった個々の思いが、ドリ大という器の中で共鳴して、街の未来を思い描き、その未来を実践しようとしている。それぞれが本業を別にもちながらも、メールなどで日々情報共有をはかっている。活動はボランティアベースだが、忙しい仕事の合間を縫ってでも職員会議に参加するのは、そこで人に会い、触発されたり価値観を語り合ったりできる時間が楽しく実り多いものだからなのであろう。

誰もが先生／生徒に。絵本をつくる授業の先生は子ども。

◇ 札幌大好きの若者たちがシブヤ大学の活動に共鳴

ドリ大の開校は二〇一〇年二月。東京の「NPO法人シブヤ大学」のメンバーとつながりができたことがきっかけだった。新しいカルチャーやビジネスが生まれる街＝渋谷を舞台に楽しい学びの場を創造しているシブヤ大学の活動に刺激を受

け、札幌でもカタカナの○○大学をつくろうという機運が高まった二〇〇九年春、デザイナーなど約一〇人が集まり、開校をめざすこととなった。シブヤ大学はこの年、経済産業省によるコミュニティビジネスノウハウ移転・支援事業で全国に姉妹校の誕生に取り組んでいた。

そのメンバーの一人が、現在学長（理事長）を務める猪熊梨恵さんだった。人・モノ・コトを掘り起こす活動がおもしろそうだと興味がわき、他のメンバーもクリエイティブな仕事に就く人などユニークな人材だったため、迷わず設立メンバーとなった。

猪熊さんは、札幌生まれの札幌育ち。おいしい食べ物がたくさんあって、少し足をのばせば豊かな自然に恵まれた札幌が大好きだという。学生時代は建築デザインを専攻し、卒業後はＷＥＢ制作会社に就職。会社ではインタビュー取材やイベント企画を担当し、「憧れる大人」にたくさん出会い、ますます札幌に魅力を感じるようになっていた。そうした折にシブヤ大学の札幌版をつくる話に出合い、街の日常から学びと様々人の出会いを生み出していくプロジェクトにかかわるのは自然な成り行きだった。設立メンバーの中から学長を決めることになった際は、もっとも若手の猪熊さんが推され、学長に就任した。コンセプトやスタッフの役割、メンバー間の関係性、空気感などをシブヤ大学から感じ取り、二〇〇九年秋にはキックオフイベントとしてワールドカフェ形式のワークショップを実施した後、二〇一〇年二月六日、さっぽろ雪まつりのステージで開校式を行った。式には上田文雄市長もかけつけて激励した。

「蹴りたい人、集まれ！玉けりザ・フューチャー」の様子。スポーツや音楽など「やってみたい」が授業になる。

◇ 整う活動基盤、四年目は「大学園」にチャレンジ

ドリ大では、先生は基本的にはボランティアとして無償で授業を引き受ける。生徒もウェブサイトから登録さえすれば、無料で受講できたり教材や材料費の実費だけで済む。お金が動く事業ではないが、唯一有給の学長の報酬や様々な経費はかかる。授業の一部を企業と連携することで企業から受け取る協賛金が主な収入源となっている。企業側は、社会貢献活動のひとつとして取り組んだり、市民のニーズをリサーチするために実験的な取り組みをする場として利用できるメリットがある。また、賛助会員を一口三〇〇〇円、企業は一万円で募っている。助成金も必要に応じて応募を検討している。

ドリ大は二〇一三年三月に三周年イベントを盛大に開催した。いつもは一人で学ぶ「生徒」が家族を連れてくるなど、確実にコミュニティとしての広がりが定着してきている。一年目には企業と連携した「協賛授業」を多く企画し運営資金には困らなかったが、日常の興味関心を深めるには物足りなさもあった。二年目は学びのニーズを出発点とする企画を中心にしたが、財政面での安定には欠けた。三年目でようやく運営バランスの取り方を見出し、自分たちらしい運営の仕方がわかってきたと学長はふりかえる。

その三年目でＮＰＯ法人格を取得した。継続的な活動とする決意のあらわれでもある。財務や労務など活動基盤の整備や情報公開に力を入れ始めた。四年目を迎え、より深く学び交流が広がるよう、連続授業を基本とした「大学園」（大学と動物園をかけあわせた造語）の取り組みにチャレンジする。「共通の思いを抱いた人同士が自然とつながり、職業や世代をこえて素になって関わりを深めていくような場にしたい」と猪熊学長。広がりをもちながら成長していくこれからが楽しみだ。

学長の猪熊梨恵さん

◆ ＮＰＯ法人札幌オオドオリ大学
所在地　札幌市中央区大通西17丁目1－7
ＴＥＬ　070－5067－5320
ＷＥＢ　http://odori.univnet.jp/